

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月7日

【事業年度】 第96期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

【会社名】 JUKI株式会社

【英訳名】 JUKI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清原 晃

【本店の所在の場所】 東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1

【電話番号】 042(357)2211(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 鈴木正彦

【最寄りの連絡場所】 東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1

【電話番号】 042(357)2211(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 鈴木正彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成23年6月29日に提出いたしました第96期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所についてはXBRLの修正を行いましたので、併せて修正後のXBRLデータ一式(表示情報ファイルを含む。)を提出いたします。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

1 業績等の概要

(1) 業績

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

② 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

(訂正前)

当連結会計年度の売上高は前連結会計年度比57.3%増の895億9千6百万円となりました。連結営業利益は11億4千4百万円(前連結会計年度の連結営業損失は111億8千7百万円)、連結経常利益は11億7千4百万円(前連結会計年度の連結経常損失は111億2百万円)、連結当期純利益は24億6千7百万円(前連結会計年度の連結当期純損失は112億3千3百万円)となりました。

<略>

(訂正後)

当連結会計年度の売上高は前連結会計年度比57.3%増の895億9千6百万円となりました。連結営業利益は7億8千5百万円(前連結会計年度の連結営業損失は111億8千7百万円)、連結経常利益は11億7千4百万円(前連結会計年度の連結経常損失は111億2百万円)、連結当期純利益は24億6千7百万円(前連結会計年度の連結当期純損失は112億3千3百万円)となりました。

<略>

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

(訂正前)

①～②

<中略>

③ 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、売上高の拡大などにより、前連結会計年度比44.3%増の680億3千万円となり、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度比2.8%減の204億2千万円となりました。

④ 営業利益

為替が円高で推移したものの、前連結会計年度に比べ売上高が大幅に増加したことなどにより、営業利益は123億3千2百万円増加して、11億4千4百万円となりました。

⑤ 営業外損益

営業外損益は、前連結会計年度の8千5百万円の利益(純額)から2千9百万円の利益(純額)となりました。これは支払利息が増加したことなどによるものです。

⑥～⑦

<後略>

(訂正後)

①～②

<中略>

③ 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、売上高の拡大などにより、前連結会計年度比45.1%増の684億1千5百万円となり、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度比3.0%減の203億9千5百万円となりました。

④ 営業利益

為替が円高で推移したものの、前連結会計年度に比べ売上高が大幅に増加したことなどにより、営業利益は119億7千2百万円増加して、7億8千5百万円となりました。

⑤ 営業外損益

営業外損益は、前連結会計年度の8千5百万円の利益(純額)から3億8千9百万円の利益(純額)となりました。これは為替差益が増加したことなどによるものです。

⑥～⑦

<後略>

第5 【経理の状況】

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
売上高	56,970	89,596
売上原価	※4 47,140	※4 68,030
売上総利益	9,829	21,565
販売費及び一般管理費	※1, ※4 21,017	※1, ※4 20,420
営業利益又は営業損失 (△)	△11,187	1,144
営業外収益		
受取利息	175	126
受取配当金	225	204
為替差益	600	593
補助金収入	219	—
その他	618	574
営業外収益合計	1,839	1,499
営業外費用		
支払利息	1,123	1,330
シンジケートローン手数料	548	49
その他	81	90
営業外費用合計	1,753	1,469
経常利益又は経常損失 (△)	△11,102	1,174

<略>

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	56,970	89,596
売上原価	※4 47,140	※4 68,415
売上総利益	9,829	21,181
販売費及び一般管理費	※1, ※4 21,017	※1, ※4 20,395
営業利益又は営業損失 (△)	△11,187	785
営業外収益		
受取利息	175	126
受取配当金	225	204
為替差益	600	952
補助金収入	219	—
その他	618	574
営業外収益合計	1,839	1,859
営業外費用		
支払利息	1,123	1,330
シンジケートローン手数料	548	49
その他	81	90
営業外費用合計	1,753	1,469
経常利益又は経常損失 (△)	△11,102	1,174

<略>

独立監査人の監査報告書

平成23年11月7日

JUKI株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平 野 満 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木 村 彰 夫 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているJUKI株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JUKI株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して平成23年6月28日に監査報告書を提出した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。